

第4回経営基盤・人材部会 議事録要旨

- 7つの切り口（項目）でよいかどうか、人材関係、経営革新はボリュームもあり分けたほうが良いと思う。
- 7つのテーマは、この程度でよいのでは。帯広を出た人材の活用するアドバイスいただく仕組みが、入っていない。人口増の関係、商店街関係も入っていない。
- 回を重ねることにテーマが、次から次と出てくる。2月で終わってよいか。条例前文に書いてあるような、基本条例の精神に戻って確認していく必要もあると感じている。経済指標各種悪化している中、議論にどっぷり浸かっていることを危惧している。
- インターンシップ関連で、私どものところで働いている親の子で中学生の娘が、手伝いに行きたいということで受け入れたところ、会社に見にくることということで、職員の緊張感が生まれよかったと思う。このような受け入れであれば、身近にできること。すぐできる。
- 条例第6条には、市民の理解と協力と書いている。ニーズの把握が大事。市民どうして欲しいか、20代は雇用、40代は福祉、60代は老後の生活のことなどにニーズがある。そういうこと念頭に置く必要がある。
- ファンド以外の項目について、外から来た人、若者に門戸を開く、間口を開くことを提案したい。地元企業でどういう人が必要とするのかそういう情報をネットや東京事務所で公開。商工会義所や市がタイアップして若者の意見を通してあげる。そういう土壌をつくるのが大事。
- インターンシップで経験を積みキャリアアップしていく。逸品運動では、三ツ星委員会30代以下のところでやらせてみようということでやらせている。
- 人材育成は、経営者と従業員は分けて行う。企業再生一辺倒だけでなく雇用と事業が残る事業再生も必要なこと。
- 平成20年度予算に反映できるものという観点で短期的という話をしたが、産業ビジョンはそれにだけとられるものではなく短中長と織り交ぜて短期、中期、長

期織り交ぜてそんなご論議いただきたい。

- どんな職業、どんな仕事があって、それらがこういう風にリンクしていく。インターンシップは同友会以外にどのようなところでやっているのか。
建設業協会で行っています。
- 同友会に委託して市内高校6校、で実施、1週間企業50数名参加、9割女性。
9月24日に発表会を行った。
- 職業柄、キャリアの授業を行っているが、職業体験、就職面談を行うのだが、受講した人は働く意識が違ってくる。親子で将来の働く意味、地域でどういう風に生きていくかことを話していないということ強く感じるので、高校生、20代の方の親御さん、家族の方への教育も必要と思っている。
- 9月26日～28日、農業高校の男子1人受け入れた。物怖じするところがあるが意欲的なので、最終日に担当してくれた子どもの写真とメッセージを渡したが、次の日の運動会にも自主的に参加。良い体験だったのではないかと思った。個人や家庭が社会を作っている、家庭や個人が充実した生活そういったものがあると、会社も発展する。
- インターンシップ一人夏場受け入れている。最後に作文いただきますが、1週間の間に多くのものを学び、読むとほろりとくる。若い職員のも年取った50代の職員にもいい効果が職場にも現れる。インターンシップは帯広は進んでいると思いますが、今後時代に合わせてどう変えていくか大事。
- 看護婦で受け入れているが、職業に対して認識を持つことは素晴らしい。自分の道に進みたいが進めない人職業の機会を与えるため、大学に行きたいが行けない人、奨学金をどうするか課題である。
- 子供のうちに職人技をもっと見せる必要がある。商店街は物売りですが、手作り豆腐屋、手作り餅屋もありますのでインターンシップの受け入れやってもいいかなと思う。
- 職人の受け入れで大工1ヶ月だがしており、成果品が残せるので楽しかったという経験を積んで帰ってもらえるが、設計の受け入れでは2日間では成果品ができない。楽しさ7割厳しさ3割くらい、社会を肌で感じてもらう。簡単なものでよい

から指針マニュアルがあるとありがたい。

- 帯広・十勝の人ではなく、外からの人、逆に呼び込むような違った取組がいいのではないか。
- インターンシップに関してキャリアガイダンス、高P連の役員を対象に5年ごとですが調査を実施、親の生の声、必要性どう思っているのか聞いている。ちゃんとした職業教育、市P連にこのような調査を実施することも考えて欲しい。
また、学生が全国から畜大に集まっているが、300円から500円でいいから十勝の名産品送って拡大PRできるのではないか。
職場体験の感想文いいものが多いので、ホームページで市民にお知らせするとか情報提供できないか。
- ようこそ先輩、NHKの番組あるが、こういうのは面白い。われわれは、働くことの意味、年金、医療保険など社会システムに関する説明や出前講座をやっています。
- ロータリクラブで出前講座やっているが、学校もカリキュラムが忙しくて受け入れが困難。
- チェーン店の話だが店長以外は、全て高校生のアルバイト。社会に出ても恥ずかしくない子を育てている。働くことは一つの手段。アルバイトして学んでもらう。
地元の蕎麦屋さんの例だが、蕎麦を提供することで人生について社会についてお客様に教えてもらう。給料安いかどうかは二の次。
- 著名（有名）な先輩が学校に来ると、子どもたちはものすごく誇りに思い、自分も頑張ってみたいなとか、それが学校の誇りになり、地域の誇りになる。この地域から立派な人は、大勢輩出している。
- 次回の日程の確認、及び第6回の日程について決定した。
第5回10月30日14:00 ~ 全員協議会室
第6回11月19日13:30 ~ 未定